

令和3年度

華服飾専門学校

自己評価・学校関係者評価報告書

基準項目ごとの学校自己評価及び学校関係者評価・意見

基準1 教育理念・目的・育成人材像

自己評価結果

華学園の「建学の精神」に則った教育理念・目的・育成人材像については、明確に定めて「学則」に明文化しており、学生便覧、ホームページ等によって学生及び教職員に公表・周知している。

育成人材像については、ファッションテクニカル科は「縫製に関する技術・知識及び社会人基礎力のある人材の育成」、ファッションクリエイター科は「販売に関わる様々なスキル及び社会人基礎力のある人材の育成」を目標としており、これらを具現化するために、教育課程編成委員会及び学校関係者評価委員会の提言に基づき、服飾関連業界等が求める人材の育成を目指したカリキュラムを編成している。また、教育理念等の達成に向けて、服飾の縫製や販売に関する専門知識、技術の修得はもとより、社会人としての礼儀やマナー、積極性、コミュニケーション能力や課題解決力もあわせて育成すべきであるとの考えに基づいて、アクティブラーニングの教育手法を活用した「オリジナルプランニング」等の特色ある教育活動を展開している。

社会のニーズ等を踏まえた将来構想については、令和元年度にスタートした「中期三ヵ年計画」に則り服飾専門学校としての構想を定めている。新たな中期計画については、現在作成中である。

基準2 学校運営

自己評価結果

理念等に沿った学校の運営方針については、教育理念、育成人材像を踏まえ、教育方針の実行、華ブランドの構築、教育システムの確立を運営方針として校長が定めている。理念等を達成するための事業計画及び予算については、理事会の承認を経て実施している。

設置法人の組織運営は、適切に行われている。理事会・評議員会は寄附行為に基づき適切に行われており、必要に応じて適時、理事協議会等の臨時会議が開催されている。

学校における運営組織は明確化され、組織として整っている。各部署、各人の業務分担の明確化が重要で、別途各人の業務分担表を作成している。

人事・給与に関しては「華学園給与規程」に基づき運用している。具体的には、各自が半年毎に設定した目標の達成度を自己評価後、直属上司が個人面談を実施して評価を行い、それらを基に学園本部が総合的に相対評価する仕組みをとっている。

意思決定に関しては稟議が行われ、決定の課程は稟議書として記録して承認がおりた段階で起案者に連絡するシステムが確立している。学生に関する情報システム化の取組みとしては、2018年度より志願者から在校生、卒業生に至るまで、一貫して管理できる情報管理システムを運用し、業務の効率化を図っている。

服飾校が抱えている最大の課題は、華学園の3校中で学生の定員充足率が極めて低いこと。PDCA サイクルを適切に機能させて、現状に至った原因の分析と改善に向けた施策を検討・実践し、事業計画に示した学生数を確保することが服飾校の最大かつ喫緊の課題である。

基準3 教育活動

自己評価結果

教育理念を基に、関連業界の方で構成される教育課程編成委員会での提言を受けて、教育課程を編成している。単元の授業に関しても達成度確認方法を明記している。授業の進行状況はシラバス記載し把握できるようにしている。運営方針、教育方針を教育理念に沿って定め、教育課程を編成している。将来の職種を見据えて学科毎、コース毎に科目の設定やそれぞれの授業コマ数を設定している。関連業界の方で構成される教育課程編成委員会及び学校関係者評価委員会において、意見の聴取や検

討を行い、教育課程に反映している。具体的には、専門科目に関しては基礎知識・技術の習得、それ以外でプレゼン力・コミュニケーション力の向上が重要であるとの多数の意見から、それを反映した教育課程を編成している。キャリア教育に関しては、就職ガイダンス、ビジネスマナー等を実施している。成績評価基準は学則に明記して学生便覧にも明記している。科目毎の評価の詳細はシラバスの評価方法に記載して実施している。取得目標の資格・免許は教育課程上で明確に位置づけられており、関連する授業科目、特別講座の開設等も明確にしている。資格・免許取得のための事前授業や指導体制は整備されており、補習等の不合格者への指導体制も整備されている。教員については専修学校設置基準の資格・要件を満たす教員を確保している。また、授業担当要件については、履歴書(専門性と担当科目も記載)、必要資格の確認及びその写しも管理している。教員の資質向上のため、関連業界と連携して研修を毎年実施しているが、さらに業界で求められる知識、技能習得、教育力・指導力の質向上が必要である。必要なセミナー等への参加を促すと同時に、自己啓発で向上を図るよう指導している。教員の組織体制に関して、業務分担・責任体制等は組織図等で明確に定めている。

基準4 学修成果

自己評価結果

令和3年度はコロナ禍での就職活動で苦戦したが就職希望者に対する就職率は100%に戻すことができた(令和2年度は84.2%)。就職活動の早期化に伴い、就職に対する早期意識付けを目的として、就職ガイダンスの授業を1年次後期より実施している。1年次3月には就職活動の為の研修を実施している。また、企業との連携を図りながら就職活動支援を行っている。今後は就職を希望しない学生の人数を減らすことが課題。取得目標の資格はコースにより異なり、各資格・免許の取得率は、合格実績と全国平均とを比較し、取得目標を決定している。合格率を上げる為の特別講座も開設している。縫製技術系の検定はほぼ合格率100%である。パターン検定は1年が3級を受験し71%の合格であった。2級に関しては36%の合格、全国平均を下回ってしまった。検定対策の講習が不十分であった。全員受験のファッションビジネス能力検定57%、ファッション色彩能力検定85%の合格率で、全国平均を上回った。ファッションビジネス能力検定は、1年次の11月に受験させている。そこで不合格の学生は2年次の検定試験に再チャレンジさせる。

基準5 学生支援

自己評価結果

毎週火・木曜日の朝、就職担当・担任とで意見交換を行い、求人情報の共有や希望者の有無等の情報共有を行っている。また就職指導(就職ガイダンス)の授業を設け、就職活動の流れから、実際の受験対策の指導(グループディスカッション、面接指導等)を行っている。受験先が決定したら、受験先に合わせた受験対策(面接指導等)を行っている。学生の出席状況に関しては毎日の出欠を担当が確認し、教務担当に報告を行う体制である。欠席や遅刻が目立つ学生は担任が面談を実施し学生個人カルテに記載して、指導経過記録として情報共有して活用している。まずは担任が個人の動向・変化をいち早く察知することが最も重要である。今年度退学者7名(前年度4名)と増加。退学理由としては、進路変更に加え、体調不良(精神的理由)であった。担任のきめ細やかな個人指導、保護者面談等に努めている。学生相談の対応窓口は担任としている。その内容は担任が指導記録(個人カルテ)に記録して、教員間、外部講師とも情報を共有して活用している。就職、学費については専門の担当者を置き、指導記録で情報共有し対応している。学費に関しては学校独自の特待生制度を設けており日本学生支援機構奨学金や各種教育ローンについては担当者が個別に対応している。奨学金制度・教育ローンについては入学案内に記載し入学前から周知している。学費納入に関しては分納制度を設け、個別の事情にも応じている。健康診断に関しては学校保健法に基づき、年1回4月に健康診断を行っている。有所見者については、予防措置、治療指示をしている。また学校医を選任している。遠隔地から就学する学生に対しては、関連企業と提携して寮を確保している。管理面においては、寮に常駐している管理人から定期的な報告を受け、生活指導に活かしている。経済的負担の軽減のための寮利用対象の独自の奨学金制度がある。外部の展示会・コンテストなど課外活動への参加等については学

校で把握し、支援を行っている。学力不足や心理面の問題がある場合は、保護者と連携し面談を随時実施している。緊急時の連絡体制も整えている。社会人への教育環境に関する特別な配慮は行っていないが、技術レベルに応じた指導をに対応している。

基準6 教育環境

自己評価結果

設置基準、法令の基準に準じ、且つ教育上必要な設備を完備している。図書館においては、専門書の他にファッション誌の購入も行っている。学生の憩いの場として学生ラウンジを設けている。インターンシップに関しては受入れ先企業の指導者と事前に打ち合わせを行い、教育効果を高める実施体制の構築を図っている。ただし、現在インターンシップは正規の授業として教育課程上の位置づけはされていない。防災に関しては学園事務局を中心に防災体制を構築し、マニュアル化している。防火防災避難訓練を実施している。毎年新生生には防災グッズを配布している。全ての校舎の耐震化を行い緊急地震速報の設置をして法令に基づき、消防設備の点検、特定建築物検査を実施して指摘事項は改善を行っている。安全管理では、不審者対策として、受付での入退館チェックを行っている。夜間は人的、機械警備の両方を導入し、学校財産の保全に努めている。授業中の事故や怪我については、対応マニュアルを策定し対応している。

基準7 学生の募集と受入れ

自己評価結果

高等学校の進学説明会に適宜参加したり、入学者用パンフレットと募集要項を作成し、情報提供を行っている。また模擬授業も高校に出向き行っている。東京都専修学校各種学校協会の自主規制を遵守し、募集を行っている。志願者には専用窓口（入学相談室）を設け、適切に対応している。華の強みを在校生、卒業生へのアンケートで把握して、パンフレット、ホームページで『華が選ばれる3つの魅力』としてアピールしている。入学選考基準、方法は規程で明確に定めており、募集要項に明記している。可否判定は入学選考委員会において、適切、公平に実施されている。学科毎の募集状況、合格率、辞退状況、出願者の成績等を考慮し授業方法の改善を図っている。具体的には基礎学力の劣っている学生が多くみられるため、入学後基礎学力試験を行い、それを把握して、一般常識の授業で対応している。学納金の算定にあたっては消費税の変化、社会状況に鑑み、算定を行い、最終的に理事会の承認を経て決定している。在学中の学納金については全て募集要項に明記し、追加徴収がないよう心がけている。また教材費は別途徴収している（募集要項に明記）。入学辞退者への返還金については、文部科学省の趣旨に基づいて募集要項に明示し、適切に取り扱っている。

基準8 財務

自己評価結果

応募者数・入学者数及び定員充足率の推移を把握し、収支の均衡を保つため、継続的に経営改善に取り組んでいる。顧問の公認会計士の指導を受けて各種資料を作成し、その内容や数値に関する情報およびその推移について把握することを十分に心がけている。単年度予算および中期計画を策定中である。予算編成および予算執行全般について、無駄な支出を防ぎ、経費節減を図っている。公認会計士による、日常および決算書類作成の会計指導が行われ、監事による会計監査を行っている。決算後には公認会計士から報告書が提出され指摘事項等について改善を図っている。私立学校法における財務情報公開の基準に沿って希望者への閲覧体制を整えている。

基準9 法令等の遵守

自己評価結果

学校教育法のもと、専門学校教育に関する各種法令、専修学校設置基準を遵守し、適正な学校運営を行っている。法令に基づく個人情報の取り扱いは適切に行っているが、規程整備にまで及んでいない。日常業務での個人情報取り扱いについては、個人責任を負うところが多い。今後は学生システムの確立により実施する。自己評価について規程を定め実施している。学校点検委員会を設置して、その内容を精査して、学校関係者評価委員会に諮り、評価結果については、改善に取り組んでいる。自己評価の結果は文部科学省のガイドラインに則り、ホームページで公開している。学校関係者評価委員の選任に関しては、学校評価ガイドライン

に基づき、必要な委員を選任している。評価結果については、経営層に報告し、改善に努めている。評価結果を取りまとめ、ホームページにて周知している。職業実践専門課程の規程に基づきホームページにて積極的な情報公開に努めている。

基準10 社会貢献・地域貢献

自己評価結果

学校の教育資源を活かした社会貢献は、教育活動に支障のない範囲で行っている。また高等学校が行うキャリア教育への支援は、見学会の受け入れ、出張講義等を積極的に行っている。国際交流については、現状、留学生の受け入れにとどまっている。

2月の鶯華祭（卒業作品展）においてチャリティーイベントを実施し募金活動を行っている。（今年度はコロナの影響で内部のみでの開催の為実施できず。）また、学校周辺及び最寄り駅付近の清掃を年間通して実施している。

学校関係者評価委員からの主なご意見・対応等

<学生募集について>

【意見】学校に活気を持たせるために、教員・学生が（届きやすい）具体性のある一致した目標を持つ。

【対応】鶯華祭で小物販売を計画しています。コンテスト参加も授業でできる範囲で検討します。

【意見】「強み」「弱み」を明確にする「強み」は「学生との距離が近いこと」「厳しさ」がある上で距離が近いかどうか。

【対応】メリハリが無かったのも事実としてあったと思います。言葉使いはじめケジメをつける。

【意見】活躍している卒業生、社会で貢献している人を掲載する。

【対応】「販売」「デザイナー」「スタイリスト」「企画」などリストアップする。

【意見】学校施設案内動画は共感を得やすいのではないのでしょうか。

【対応】フリーゼミで「学校施設紹介」を1つの題材として検討します。

【意見】高校生からのInstagram投稿やDM等への返信で身近に感じてもらえると思います。

【対応】InstagramでのDMは行っていないが、LINE相談には広報室で対応しています。

【意見】SNSの強化。リアルな情報。卒業生と在校生の自由対談など。自然な動画。

【対応】SNS担当教員置き、積極的にアップ。フリーゼミでも授業内で写真を撮影、学生にも協力願いたいTikTokに動画投稿しています。

【意見】入学パンフレット以外にピギーズスペシャル、ファッションショーなどを広く紹介するツールを作ってはどうか。

【対応】ホームページ上で動画にて紹介。今後はTikTokにも投稿する。

<教育活動 学生の質の向上 について>

【意見】業界で活躍できる販売員の要素として「分からないことをわからないという」「言われたことを理解できる」「謙虚に努力する」「組織として反復できる機会があるか」。

【対応】日常の授業の中で取り組んでいます。両学科とも発表会にむけての練習など今以上に繰り返し行います。お互い同士の質問や審査などの機会を継続します。

【意見】ICT教育はどの分野でも導入され社会人になっても必要なスキルゆえ継続すべき。情報は数年で変わるのでアンテナをはる。

【対応】就職先現場、高校までの教育現場での状況（情報）も把握し、できる限りの対応をしていく。

【意見】時代で変わらぬ縫製技術やデザイン力は必要。

【対応】クリエイター科でも「ソーイング」授業を2年前後期に新たに加え、作品発表も行う。

【意見】良い作品でもプレゼンの良し悪しで伝わる内容が大きく変わります。

クリエイター科は特に自分の考えや商品を正確に伝えることが必須スキルです。

- 【対応】 クリエーター科は模範を示し、プレゼン向上させていきます。また、製作した作品のプレゼン発表会も実施します。
- 【意見】 SDGs に力を入れるのは良いです。トレサビリティも知っておき意識を向ける方が良いです。
- 【対応】 実行できる SDGs の具体的内容を検討する中で行っていきます。
- 【意見】 2 年生最後の発表会も集大成にしては緊張感がない。外部審査員入れることも検討。賞品・賞金も魅力あるものにする。
- 【対応】 プレゼンのみ、学園内他 2 校の教職員に審査を依頼する。発表は科目単位取得の必須要件と定め、厳しく採点する。また、3 校合同の発表会も学園に提案している。
- 【意見】 テクニカル科はコンセプト組み立て、デザイン、素材意識のアップが必要。
- 【対応】 カリキュラム上、時間の余裕ないため、クリエイター科の発表を見て学習させます。
- 【意見】 クリエーター科は学外コンテスト応募を必修にする。
- 【対応】 まずは TLF（東京レザーフェア）「革のデザインコンテスト」に応募します。
- 【意見】 学内発表会は学内の甘えで「発表する能力」が低い。
- 【対応】 該当科目の単位取得のため点数化し厳しく採点する。また審査員から指摘された事項を次回から発表前に振り返りをした上で発表し PDCA をまわす。

<教育活動 教職員の資質向上 について>

- 【意見】 同じフォームで反復して言える機会作る企業では「始めに結論、その後に理由」を基本にコミュニケーション能力を身に付ける。
- 【対応】 基本の発表フォーマットを作成し統一させる。
- 【意見】 ICT 技術や協働学習は今後不可欠です。ソーイングの技術もちろん大切です。
- 【対応】 基本技術修得は欠かさず、時代にマッチした教育も志向していきます。
- 【意見】 オンライン・オフラインの使い分け活用が必須。授業も導入しオムニチャネル的志向と柔軟性を持たせる。
- 【対応】 ロイロノートを活用し、課題を出し提出させるなど工夫している。
- 【意見】 後輩教職員を育てる環境作り。
- 【対応】 OJT で指導しながら積極的に（新しいことなど）任せていく。

<学修成果について>

- 【意見】 具体的に成果が言えること。成果を述べるには悪い部分の解決策が言え成果にどのように結びついたか言えること。
- 【対応】 作品発表会の中で指摘事項を踏まえた上で、次回の発表に取り組み、PDCA をまわすようにする。
- 【意見】 学生の作品はそのまま製品になることを学んでいるので協働学習を通して客観性を学ぶことは大切。
- 【対応】 作品発表会では今後もお互いの作品を見て勉強することを継続します。
- 【意見】 狭き問の「技術職」合格には「縫製・デザイン技術」を徹底的に磨く必要がある。「実技試験」でタイムマネジメントが出来る力を身に付ける。
- 【対応】 洋裁技術検定対策では、6～10 時間で完成させる。日常の課題も常に締め切りを設け、時間を意識させている。
- 【意見】 自分の考えを相手に 1 対 1 で明確に「伝える力」を養う。
- 【対応】 テクニカル科は作品発表会で見本フォーマットを明示し、それに従い発表。
- 【意見】 企画・販売する取り組み、ショップ販売行い、学習成果を示せる実践的な授業があってもよい。
- 【対応】 鶯華祭に向けて、限定の店舗を設けて小物販売を計画中。